

テーマ：観光（実践校）

留萌管内 留萌市立緑丘小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとのよさを発見し、愛着や誇りの気持ちを育むため、市内の観光名所や特産物などについて調べ、地域の特性や多様性について理解を深めるとともに、市内で働いている方々を外部講師として招き、地域の産業についてのインタビュー活動等を行うなど、ふるさとの魅力について探究的な学習をしました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

留萌市の観光産業の課題を発見するため、留萌市と北海道の他の市町村の観光客数のデータを見比べるなどの事前学習を行い、留萌市の観光産業の課題の解決のために「留萌の名所や名産を調べ、宣伝をするためのポップを作成する」という探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

留萌市発行の社会科副読本「るもい」やインターネットを活用し、自分がテーマに設定した場所や物についての基本情報を集めるとともに、働いている方々から話を聞いて「宣伝ポイント」の情報を収集しました。また、国語科の授業と関連させ、アンケートとインタビューを行うことで、魅力を伝えるための情報を収集しました。



【インタビューの様子】

(3) 整理・分析

「カズノコは日本一の生産量であること」など調べて分かった基本情報と「ゴールデンビーチの宣伝はどのように行っているのか」などのインタビューから分かった「宣伝ポイント」について、整理・分析を行い、情報から分かることをまとめました。

(4) まとめ・表現

まとめとして、基本情報と「宣伝ポイント」をそれぞれ1枚ずつのポップにまとめ、校内掲示と学校ホームページへの掲載を行い、他学年の児童や保護者・地域住民からの感想を通じて、地域の観光産業に対する取組を振り返り、理解を深めました。



【児童が作成したポップ】

②児童の感想

- ・留萌市のよいところをもっとみんなに伝えることで、インターネットのランキングにも載ったり、よいところが広まったりするとよいと思います。
- ・観光客に「ここに行ってみたいな」と思ってもらうためには、観光地の写真や動画をSNSに投稿するとよいと思いました。
- ・みんなと協力して、一緒に観光大使になって、留萌市のことをもっと知ってもらうことができよかったです。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 導入及びまとめの場面で行った「留萌と言えばこれ!」という課題に対して、導入の場面では、児童一人当たり6～7項目程度の回答数だったが、まとめの場面では児童一人当たり13～16項目の回答数となるなど、本実践により地域への理解や興味・関心を高めることができました。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、実施が難しい校外学習もあったことから、今後も取組を継続できるよう、ICTの活用等により、見て・触れて・感じる活動等を工夫する必要があります。